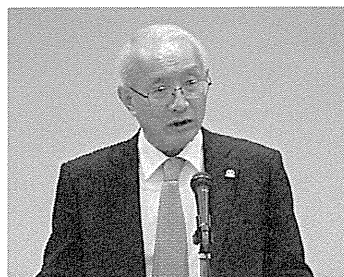


石垣牛流通協議会が総会、植村会長「フードチェーン構築が最終目標」



石垣牛流通協議会(植村光一郎会長)は17日、東京都千代田区の都道府県会館で2024年度総会を開催。23年度事業報告、24年度事業計画および収支予算など上程全議案を承認した。24年度も石垣牛の積極的な啓発活動の実施や地産地消支援事業参加、さらにSDGsの研究会への参加などを計画している。また、役員改選では植村会長らを再任した。



植村会長は「前期は出荷頭数1千頭を目標に掲げたが、行政や関係団体など、多くの皆さまから支援を受け、産地でも増頭に向けて生産意欲が高まってきた。増頭については、これまでなかなかうまくいかなかったのだが、ようやく軌道に乗ってきており、今では増頭への機運が高まっている。これまでは出荷頭数の問題で販売を待っていたような状況もあったが、胸を張って石垣牛を使っていたことができるようになり、自信を持って石垣牛の販売促進に精いっぱい注力していきたい。1千頭と言わず、将来的には1500頭、さらに2千頭まで出荷頭数を増やしていきたい。海外市場へのグローバル戦略に向けても販売を推進していきたい。これには皆さまの力添えが必要だ」と呼びかけた。

また、植村会長は「最終目標はフードチェーンの構築だ。まずは石垣牛のおいしさを知ってもらい、その次にやることは、石垣牛のおいしさの理由について消費者の方がたに理解していただくこと。さらにその次には、生産工程の優位性を知らしめていきたい。そしてもう一つは、消費者の購買活動がいかに優良な農畜産物の生産基地応援になるかを消費者に理解していただき、しっかりとしたフードチェーンを構築していく。これが最終的な石垣牛のブランドイングの目標だと考えている」と説明。さらに「日本で実現した暁には、グローバルな形で世界に向けても発信し、石垣牛の素晴らしさを全世界の方がたに知っていただきたいと考えている。そのためにも、ぜひ生産者の皆さまには1頭でも多く石垣牛を生産していただきたいし、私たちもそれに対しては、いかなる努力も惜しまないつもりだ」と力強く呼びかけた。

来賓からは石垣市の中山義隆市長(代読)、JAおきなわの前田典男代表理事理事長、農畜産業振興機構の天羽隆理理事長、中央畜産会の姫田尚副会長、全国肉牛事業協同組合の中林正悦理事長がそれぞれの立場から祝辞を述べた。

また、総会終了後には、日本食肉格付協会の小林淳二専務理事が「牛枝肉・部分肉取引規格の解説」と題し、記念講演を行った。さらにその後は場所を移し、生産者と関係者による交流会が行われた。